

1 教育目標

(1) 本校の教育目標

校訓を基底におき、「自己肯定感や自己有用感を高め、自ら成長できる子」の育成を通して、児童・保護者・地域・教職員にとって魅力ある学校づくりを目指す。

校 訓	めざす児童像	具 体 目 標
○ なかよく ○ がんばる ○ やさしい子	自己肯定感や自己有用感を高め、自ら成長できる子	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合い、考えを広げたり高めたりする子 ・意欲的な姿勢で学び、基礎学力を高める子 ・進んであいさつをして自分を開く子 ・明るく、思いやりを持ち、人権感覚を高める子 ・体を鍛え、主体的に運動する子

(2) 学校教育方針

4つのアプローチからなる来迎寺スタンダード【「わくわく」学びづくり・「いきいき」心づくり・「すくすく」体づくり・「どきどき」絆づくり】を充実させることで、自己肯定感や自己有用感を高め、SDG s 未来都市の一員としての資質の基盤を形成する。そのために、家庭はもちろん、学区教育懇談会を中心として、地域との情報共有、連携・協働することで、「地域とともにある学校」づくりを推進する。

(3) 重点努力目標（多忙化解消にかかる業務改善を含む）

ア 確かな学力を育む教育（知）－【「わくわく」学びづくり】

- ① 課題解決的な学習過程を構築し、仲間と学び合い高め合う機会を継続的に設定する。特に、SDG s 未来都市の一員としての資質を高めるために、17の目標に対応した系統的な学習活動からなる総合的な学習の時間を推進する。以上を通して「主体的・対話的で、深い学び」を実現し、「学ぶ楽しさ」を実感できるようにする。
- ② ICT の継続的で有効な活用と知立市学校教育スタンダード「かきつばた」の方向性の相関を意識しながら学びのユニバーサルデザイン化に努めることで、「個別最適な学び」を実現し、「分かるうれしさ」を実感できるようにする。

イ 豊かな人間性を育む教育（徳）－【「いきいき」心づくり】

- ① 「自分を開き、相手に寄り添うあいさつ」の習慣化を通して、社会性を高め、自己肯定感を醸成する。
- ② 心に響く道徳科の授業の展開や、多様な体験活動の充実を通して、命を尊ぶ態度や人権感覚の醸成、規範意識の高揚等、教育活動全体で豊かな道徳性を培う。

ウ 健やかな心身を育む教育（体）－【「すくすく」体づくり】

- ① 授業、放課等の時間を効果的に活用したり、手軽に運動ができるような設備の充実を図ったりすることで、主体的に運動したり体力を高めたりする姿勢を育てる。
- ② 食生活に関心を持ち、生涯にわたって自らの健康を適切に管理・改善していく資質や能力を養う。

エ 自己肯定感の育成－【「どきどき」絆づくり】

- ① 自他を認め合う機運を学校・学年・学級で高めたり、キャリアパスポートの有効活用を図ったりすることを通して、自己肯定感や確かな絆づくりに努める。
- ② 児童の困り感に寄り添ったり、適切な支援体制を構築したりすることで、インクルーシブ教育の実現を目指す。

オ 学校・家庭・地域の連携と協働を通じた「地域とともにある学校」づくり

- ① 学区教育懇談会等を活用して地域と連携・協働することで、未来志向の学校、地域の在り方を模索する。
- ② 150年に及ぶ学校の歴史を振り返り、ともに祝うことができる年記念を学校と地域をあげて企画・運営することで、児童が地域文化の中核としての学校の価値を一層認め、愛校心を一層高めたりできるように配慮する。

カ 教職員の資質向上と働き方改革の推進

- ① 校内外での研修・研究機会の確保に努め、個々の教員としての資質の向上に努める。
- ② 各種学校マネジメント力を強化し、教育活動と勤務体制の見直しを図ることを通して、多忙化解消を推進するとともに、個々の教員の望ましい働き方や生き方の実現を図る。